

* 研究目的

加速するデジタル化社会において、iPad に代表されるタブレット端末、スマートフォン等の高性能携帯型情報端末の利用が一般的となり、電子書籍やデジタル教科書、デジタルコンテンツの積極的な活用が進んでいるだけでなく、クラウドコンピューティングの利用も増えている。ICT を活用して「大学教育の質」を高めるためには、その意義を再確認し、学習効果を検証すると同時に、学生への情報教育のあり方を考える必要がある。デジタル化社会における大学教育を様々な角度から考えるために、欧米圏の実情とも比較研究する。そして、甲南大学の教育の現場に即してタブレット端末利用の実態や学生の反応を調査研究し、併せてタブレット端末やスマートフォン利用に関する大学生の意識調査を行うことが本研究の目的である。

* 研究チームメンバーと研究課題

中村典子	甲南大学国際言語文化センター 教授	「外国語学習におけるタブレット端末利用とデジタル情報活用の射程」 国際言語文化センターでは、iPad を活用した iCALL 教室を 2012 年度から試行的に導入した後、2013 年度から、3 つの iCALL 教室で合計 150 台の iPad を利用して先進的な外国語教育を行う。iPad や iPhone 等のスマートフォンを活用した外国語学習における具体的な学習効果（学習時間の増減、自律的学習態度の涵養や語学運用能力向上の度合い等）を、本学の学生を対象として調査研究するとともに、欧米圏の大学教育におけるデジタル化の実情を探り、デジタル情報・情報機器を活用した大学教育のあり方について考察する。
井上 明	甲南大学マネジメント創造学部 教授	「大学におけるタブレット端末の効果的な活用法の研究」 マネジメント創造学部では 2013 年度よりタブレットパソコンを推奨パソコンとした。新入生の約半数近くが推奨パソコンを利用

する予定である。本研究では、タブレットパソコン利用に関する実態調査を行い、大学におけるタブレット端末の効果的な活用方法を検討する。

林 健太 甲南大学経済学部
准教授

「スマートフォン、タブレット端末利用時の個人情報保護に関する大学生の意識調査研究」
スマートフォンやタブレット端末を通じての（甲南）大学生のクラウドサービス利用状況を調査すると同時に、個人情報を第三者に提供することに対する意識調査を行い、頻発する情報漏洩によるトラブルへの有効な対処法について考察する。

和田昌浩 甲南大学知能情報学部
准教授

「タブレット端末を利用したロボットの操作とコミュニケーション」

現在、タブレット端末やスマートフォンの OS は幾つか存在しているが、ユーザは好みに応じて使い分けているのが現状であり、それぞれの特徴を活かして、教育や研究の場で活用する必要があると考えている。また、これらの端末に対応した SDK (Software Development Kit) が存在し、簡単にアプリケーションを開発できるようになった。そのため、情報通信やロボット工学などの分野でも、こういったタブレット端末を利用して、コミュニケーションや遠隔操作をすることが容易になってきている。そこで、本研究

では、タブレット端末を利用してロボットの遠隔操作や各種データの可視化などのアプリケーションを作成し、実際の移動ロボットを利用して、それらの効果を確認する。